

薬連ハイライト

JPLフォーラム2024開催される！ テーマ『20万本の花を咲かせましょう』

令和6年2月18日（日）午前11時よりAP日本橋においてJPLフォーラム2024が開催された。今年のテーマは『20万本の花を咲かせましょう』であり、全国の都道府県の女性代表者47名、役員委員26名、来賓3名が参加した。司会は吉岡企画実行委員が担当し、初めに山本会長の挨拶がなされ「薬剤師議員が与党に2人いるという意義は極めて大きい。本田顕子議員は当選して4年半であるが、地方に行ってみるとまだまだ知られていないことに気付かされる。皆様方に広くネットワークを広げていただきたい。」と述べられた。続いて神谷政幸参議院議員、近藤由利子日本女性薬剤師連盟会長より挨拶をいただいた。

次に「あい・きぼう・これからの医療と薬剤師～わたしたちの思いを政策に反映するために～」と題して本田顕子参議院議員の講演があった。自身のプロフィールから始まり、薬剤師としての本田議員の人物が伝わり、「先人の多くが作った道を歩いて今が

ある。女性の力を結集してほしい。」と力強く締めくくった。

写真撮影、軽食の後60分の座談会が行われた。『女性のコミユカで「本田あきこ先生」の魅力を深掘りする！』を主テーマに、橋本常任総務の司会で「①災害について」「②コロナについて」「③日本の教育、科学技術のすばらしさについて」をサブテーマとして、本田議員及び3名の登壇者による質問形式で進められた。各グループからも質問等があり、大変盛り上がった座談会となった。

次に小屋敷総務によるグループディスカッションの趣旨説明の後に「参議院議員本田あきこの国会活動」の紹介があり、各県で「本田あきこ物語」と同様に活用してほしいと要請された。そして、6グループによる2時間のグループディスカッション「本田あきこを広めよう」がスタートし、終了後各グループから発表があり、各県に持ち帰ることになった。

最後に、川田幹事長の総評及び熊本の高田良子先生のコールで閉会となった。

オレンジ日記

医薬品の供給安定化に向けて

参議院議員・薬剤師
本田 顕子



令和6年3月2日（土）、衆議院本会議で令和6年度予算案が可決されました。

来年度予算案は「3報酬改定」の財源を含め、賃上げ対応や少子化対策などの先送りにできない課題対策に加え、能登半島地震の復旧・復興等対応のために予備費を組み替えていますので、参議院でも円滑な審議と速やかな可決・成立につなげたいと思います。

今般の予算案には医薬品の供給回復に向けた取組も含まれています。約3年前に供給不足が顕在化してからのジェネリック医薬品関連予算は、それまでの「使用促進」から「供給・品質」に重点が置かれ、令和4年度以降、品質確保の徹底や増産体制の整備等に関する事業に取り組んでいます。

また、物価高騰や度重なる薬価改定による採算性の悪化も供給不足の主たる要因の1つですので、今回の薬価改定では、①基礎的医薬品の薬価下支え制度の対象範囲の拡充、②平均乖離率7.0%を超えない範囲の品目を対象にした特例的な不採算再算定を行うことになりました。

新年度には厚生労働省ホームページで随時、供給停止や出荷制限に関する情報が公表され、かつ調剤時の供給事情に伴う説明ややむを得ない製剤実施時の報酬上の評価がなされることで、現場の皆様のご負担が少しでも軽減されることを願います。生産から流通に至る複合的な課題を抱える供給問題に対して、私も少量多品目生産など産業構造上の対応策を含め、引き続き供給安定化に向けて頑張っています。

政幸だより

資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会で質問に立ちました

参議院議員・薬剤師
神谷 政幸



令和6年2月14日の参議院資源エネルギー・持続可能社会に関する調査会で質問に立ちました。薬学部では放射化学や放射性医薬品学を学びます。病院では放射性医薬品を扱っており、一部の病院ではPET検査で用いられる薬剤の調製等を薬剤師が行っています。日本核医学会は核医学認定薬剤師制度を設置しています。放射性医薬品には直接人体に投与し、体外から放射性同位元素が放出する微量の放射線を測定する体内診断用放射性医薬品と、直接人体には投与せず、血液及び尿中に含まれる微量の物質を体外で測定する体外診断用放射性医薬品がありますが、今回の調査会では、がん治療で治療と診断を一体化した新しい医療技術である「セラノスティクス」について、量子科学技術の未来への可能性も含めて質問しました。

病巣の内部からα線を照射し、がん細胞を死滅させることが期待されているアクチニウム225は、骨転移が全身に広がった転移性前立腺がん治療に対する効果が世界中で注目を集めています。これを生成するために加速器、若しくは原子炉を用います。そこで、現在運転を停止している高速実験炉「常陽」において、アクチニウム225の製造能力の実証に活用する目的で原子炉設置変更許可申請が行われたことと、国際社会における我が国の優位性について質問しました。「常陽」が運転を再開した場合、OECD諸国で運転を行う唯一の高速炉となることから、アクチニウム225を大量に製造できる利点を持つ高速炉を活用した製造手法の研究開発を世界に先駆けて行うことができる旨の回答を得ました。今後更なる発展が期待されるラジオセラノスティクスの分野で我が国がしっかり存在感を示し、一日も早く新しい治療法が提供されるよう要望しました。